

## 令和5年度 赤堤小学校自己評価報告書

＜自己評価報告書を作成するに当たって＞

- ・学校関係者評価アンケートの項目にそって、「学校の自己評価」「保護者・地域のアンケート調査」「児童のアンケート調査」「学習習得確認調査」等の分析から、次年度の改善点の方向性を示しています。
- ・「とても思う」「思う」の評価を肯定的な評価として受け止め、分析や考察に活用しています。
- ・児童調査アンケートは、毎年5・6年児童を対象としています。

### 重点目標

社会の中で自立して生きるための基礎的な力を育てる。  
○みんなの中で自分を生かす ○自分の行いを振り返る

### 重点目標に対する具体的な方策（基本方針）

#### 1 分かり易く興味深い学習指導の実施

各教科等において、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、確かな学力を身に付けさせる。また算数科における習熟度別少人数指導を実施し、基礎・基本の徹底を図るとともに、GIGA スクール構想に基づいた個別最適な学びと協働的な学びを実現する。

(1) 評価結果 ○は成果といえる評価 ●は課題となる評価 △増 ▲減

【保護者アンケート調査から】		
○本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。	(80. 3%)	▲
●本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	(75. 0%)	▲
○本校は、子どもの話合いや発表などの機会がある。	(88. 8%)	△
●本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	(72. 8%)	△
【児童のアンケート調査から】		
○先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。	(97. 6%)	△
○先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	(92. 1%)	△
○授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	(98. 2%)	△
○先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	(83. 3%)	▲
【学校の自己評価から】		
○児童の実態や指導内容に即して、個に応じた最適な学びの充実を図っている。	(91. 7%)	
○児童一人ひとりが主体的に取り組み、「振り返りを活かした、よりよい学びの見通しをもたせる指導の工夫」を取り入れた学習指導を行っている。	(87. 5%)	
○ICTを積極的に活用し、分かり易い学習指導を行っている。	(91. 7%)	
○めあて→自分の考えをもつ→仲間との考えの交流→まとめ・振り返り」の展開を基本とした探究的、課題解決的な学習指導を行っている。	(91. 7%)	

## (2) 考察

子どもの話し合いや発表の機会については、児童・保護者ともに前回より高い評価を得た。子どもたちが主体的に学び合っている様子が多く見られる。保護者からの評価で黒板の書き方やプリントの工夫についての項目については、前回から若干ポイントは上がったが、引き続き低い。また、ICTを工夫して分かりやすい授業をしているという項目の数値が低い理由として、低学年のICT活用率が低いこと、教職員がICTを有効活用した授業づくりの研修が不十分であることが考えられる。75%とはいえ、改善が必要である。

## (3) 改善案

教師のICTを工夫した分かりやすい授業づくりは、今後とも校内研究、校内研修をはじめ全教員で取り組んでいくべき課題である。ICTを活用した授業については、情報教育全体計画や情報教育指導計画をもとに、低学年から計画的に指導をしていく。黒板の書き方については、課題把握から振り返りまで、子どもたちの思考の流れが分かるようにする。各主任教諭を講師にして、それぞれの専門性を生かしたミニ研修会を年間10回程度実施することを継続し、さらなる授業力、指導力の向上を目指す。また、基礎・基本の学習の定着に向けて、朝学習や家庭学習、3年生以上では、タブレット端末を用いて個別の課題に合わせたドリル的な取り組み（Qubinaの活用）等の指導の工夫を継続する。さらに、児童が高く評価をしている友達との教え合いや話し合い、発表の機会を大切に、児童一人一人が「分かった」を実感できるようにしていく。

## 2 集団づくりを通して仲間と協働する教育活動の推進

児童が、自らが所属する校内の様々な集団の中で、発達の段階に応じて自分の役割を自覚し、集団内の仲間と互いによさを認め合い、生かし合いながら、協働してその集団の目標を達成する教育活動を行う。

### (1) 評価結果      ○は成果といえる評価      ●は課題となる評価      △増      ▲減

【保護者アンケート調査から】		
○学校行事は、子どもにとって楽しい。	(95.3%)	▲
○学校行事は、子どもにとって達成感がある。	(93.8%)	▲
○本校は、子どもの意欲を大切にしている。	(89.7%)	▲
【児童のアンケート調査から】		
○学校行事は、楽しい。	(93.9%)	△
○学校行事は、達成感がある。	(86.1%)	△
○先生は、児童の意欲を大切にしている。	(89.1%)	△
【学校の自己評価から】		
○児童一人一人がめあてと役割をもって取り組み、めあてを達成し役割を果たす経験を、計画的・継続的に積み重ねていけるようにしている。	(95.8%)	
○目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く友達と協調して取り組む姿勢（非認知能力）を育成している。	(87.6%)	
○自分の役割を自覚し、互いによさを認め、生かし合いながら協働して集団の目標を達成する教育活動を行っている。	(91.6%)	

## (2) 考察

本校は、目指す学校像「子どもの主体性を育む赤堤小学校」のもとに教育活動を推進している。学校行事については、楽しさや達成感、子どもの意欲などについて、保護者からは95%以上の高い肯定的評価を得ている。またコロナ禍で制限されていた学校行事も制限がなくなったことにより、子どもからも昨年度をさらに上回る肯定的評価があり、本校の学校行事は、成果を挙げていると捉えられる。教員の働き方改革のもと、教員の過度の負担は軽減していく方向性に留意しつつも、今後も子どもが楽しみながら体験できる集団活動や学校行事等、保護者の期待に応えていくことが重要と考える。

## (3) 改善案

昨年度の運動会や学習発表会の計画の改善を図ったが、その中から得られた新たな知見をもとに、今後の学校行事の在り方として適切と思われる点についてはさらに改善を図る。今後も児童や保護者の期待に応えるよう、集団づくりに関わる教育活動を重視していく。

## 3 健やかな体づくりの推進

6年間の系統性のある体育・健康教育・保健教育を推進し、生涯にわたり、心身の健康と保持増進を図り、活力ある生活と豊かなスポーツライフの実現を目指す。

(1) 評価結果    ○は成果といえる評価    ●は課題となる評価    △増    ▲減

【保護者アンケート調査から】	
○子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。	(83.8%) ▲
○子どもたちは、友だちと一緒に楽しく運動している。	(89.7%) ▲
【児童のアンケート調査から】	
○友だちといっしょに運動することは楽しい。	(91.0%) △
【学校の自己評価から】	
○食育や保育・健康教育の充実を図っている。	(87.5%)
○児童が主体的に運動に親しむ時間を設定し、習慣化を図っている。	(95.8%)

## (2) 考察

本校の体育的活動全般について、保護者からは高い評価を得ている。体育科の年間指導計画と関連させた校庭遊びとして、わくわくスポーツタイムやなわ跳び月間、マラソン月間などは、児童にとって運動習慣を身に付けるものになっている。また、友達と一緒に運動することに関する項目については、昨年度から肯定的評価の数値が上がっている。上記の活動は今年度から新型コロナウイルス感染症の制限がなくなり、全校児童が校庭に集まって活動しているため、上級生が下級生へ指導することや、下級生が上級生から教えてもらうことに、喜びや楽しさを感じている印象が見られる。

## (3) 改善案

全般に高い評価を受けている項目である。引き続き、体力テストの結果から、本校児童の実態に応じた運動の場を設定していく。

## 4 個性や能力、発達の段階に応じた組織的な指導の推進

児童一人一人への理解を深め、個別の状況に応じた最適な指導の手だてを明確にし、保護者・関係機関との情報共有、連携体制の整備を推進する。

(1) 評価結果      ○は成果といえる評価      ●は課題となる評価      △増      ▲減

【保護者アンケート調査から】		
○子どもたちは、自己肯定感をもっている。	(80.4%)	▲
●本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。	(70.6%)	▲
●本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業がある。	(54.4%)	△
●本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。	(52.5%)	△
【児童のアンケート調査から】		
○目標をもち、その実現に向けて努力している。	(85.4%)	▲
○自分やクラスが立てためあての達成に向けて協力している。	(87.2%)	△
●自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。	(67.2%)	▲
●区立中学校に関する情報が提供されている。	(50.3%)	△
●学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。	(32.7%)	△
【学校の自己評価から】		
○児童一人ひとりの理解を深めるとともに複数の教職員で共通理解を図り、共有している。	(95.8%)	
○児童の発達の段階や個別の状況に応じた指導を行っている。	(95.8%)	
○特別支援委員会を通して支援の必要な児童の情報が共有され、校内すべての人材、関係機関を積極的・効果的に活用し、組織的に教育活動を行っている。	(87.5%)	
○Q-U 調査や「学校生活アンケート」等の結果の分析を、孤立しがちな児童、仲間関係で悩む児童、不登校や問題行動等の早期発見・早期対応に生かしている。	(87.5%)	

## (2) 考察

いじめ防止教育やキャリア教育などは、計画通り実施できた。しかし各種のゲストティーチャーによる体験的な学習について、可能な限り実施したが、まだコロナ前の水準ではない。また、自己の生き方や将来のことについて考える授業の在り方について、保護者の肯定的評価が前回より改善したが、児童の肯定的評価に改善が見られないことが課題である。「赤松学舎」での交流や、それに関する情報も十分でないことがアンケートから受け止められる。今年度は部活動体験や中学生の職場体験を実施したが、一部の児童・生徒に限定されていることも一因であるとする。

## (3) 改善案

上記にあげた、赤松学舎の取り組みをはじめとする様々な教育課題に対応した教育活動については、今後も継続して取り組んでいく。ゲストティーチャーによる体験授業は、授業時数を踏まえながら内容を精選し、効果的に実施していく。本校では、目指す学校像「主体性を育む赤堤小学校」を世田谷区の「キャリア・未来デザイン教育」の核と捉えている。来年度はキャリア教育をより具体的に実践し、基礎的・汎用的能力の育成と非認知能力の向上を図る。また、重点目標である「みんなの中で自分を生かす 自分の行いを振り返る」ことを児童、保護者、学校、地域の誰もが共有し、キャリア教育やSDGsをはじめとする教育活動を通して、一人一人が主体的な態度や行動がとれる機会や場面を設ける指導の工夫をする。

## 5 保護者、地域をパートナーとした教育活動の推進

保護者・地域を、教育活動を充実・発展させるためのパートナーとし、役割分担をしてそれぞれが責任を果たすとともに、学校運営や教育活動への参画を得て学校への理解を深め、学校運営の中期的な安定を図る。

(1) 評価結果    ○は成果といえる評価    ●は課題となる評価    △増    ▲減

【保護者アンケート調査から】		
○本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。	(93.7%)	△
○本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	(91.6%)	▲
○本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。	(93.7%)	△
●本校は、地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	(78.2%)	▲
●本校は、地域の活動などに協力的である。	(78.4%)	△
●本校は、地域に情報を提供している。	(73.8%)	△
【地域の方へのアンケート調査から】		
○学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。	(89.3%)	▲
○学校は、安全性を高めようと地域と協力している。	(89.3%)	△
○地域の人や施設を教育活動に活かしている。	(85.7%)	△
●学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。	(64.3%)	▲
【学校の自己評価から】		
○保護者や地域の方々に教育活動の状況を積極的に発信している。	(91.7%)	
○学校運営委員会を通して、学校運営や各学年の実態を伝え、保護者・地域から現状に対する考えを聞き、教育活動に生かした。	(91.7%)	

### (2) 考察

保護者からは、学校だよりやホームページ、学校公開、保護者会等での情報提供について、90%を超える肯定的評価を得ている。地域の人材や施設の活用をはじめとする地域と連携した教育活動については、コロナ禍で十分な取り組みが行えなかったところはあるが、徐々に地域との連携をした活動は戻りつつある。地域の方からは、学校からのお知らせについては引き続き高い評価を得た。地域の安全性を高めたり、地域の人材や施設を活用したりすることについては、大幅に改善され85%を超える評価を得ることができた。今年度は学校公開や直接授業を参観する機会が増えたにも関わらず、評価が高いとは言えず改善が必要である。

### (3) 改善案

学校だより・学年だより、学校ホームページ等での情報発信の重要性を認識しており、ホームページや緊急メールシステム「すぐーる」の機能を活用し情報を発信してきた。今後も、ペーパーレス化を進める中で、より早く、より詳細な情報の提供に努める。また、地域の方へのホームページの閲覧やすぐーる受信等の周知についても改善を図る。地域の人材や施設の活用については、学校支援コーディネーターと連携を図り、充実させていく。引き続き、保護者や地域との連携を重視し、共に子どもを育て、学校をつくる教育活動に向けての学校運営を目指す。